

都市再生機構保全工事共通仕様書
(令和5年版) 抜粋

2章 防水修繕工事

5節 脱気絶縁複合防水工事（歩行用・軽歩行用）

2.5.2
脱気絶縁複合防
水
(歩行用ウレタ
ンゴム系全面修
繕1回目)

2.5.1表 脱気絶縁部（平場部）の工程

工程	材料	使用量/㎡	工法
1	接着剤	0.2kg	くしごて、はけ塗り又はクシ目バケ
	プライマー(注)1	0.15kg	はけ塗り又はローラー塗り
2	通気緩衝シート(注)1、2、3	—	張付け
3	ウレタンゴム系塗膜防水材(注)4	1.5kg	くしごて、金ごて又ははけ塗り
4	ウレタンゴム系塗膜防水材(注)4	1.5kg	くしごて、金ごて又ははけ塗り
5	層間プライマー	0.1kg	はけ塗り又はローラー塗り
6	無機質系防水保護塗料	1.0kg	こて塗り、はけ塗り又はローラー塗り

(注)1 工程1のプライマーは、工程2に自己接着型の通気緩衝シートを使用する場合に用いる。

2 工程2の通気緩衝シートは、ポリマー改質アスファルトシート又はゴムシートとし、合成繊維不織布を使用する場合は、ウレタンゴム系塗膜防水材の塗布量を4.5kgとし、塗膜防水材の塗布工程を3工程に分けて塗布する。

3 工程2の通気緩衝シートは、脱気機能を有するものとする。

4 工程3、4のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

5 工程6の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2.5.2表 庇、架台天端及び立上り部等の工程

工程	材料	使用量/m ²	工法
1	プライマー	0.2kg	はけ塗り又はローラー塗り
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）(注)1	0.5kg	こて、ゴムベラ又ははけ塗り
3	補強布	1.1m	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）(注)1	1.0kg	こて、ゴムベラ又ははけ塗り
5	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用）(注)1	1.0kg	こて、ゴムベラ又ははけ塗り
6	層間プライマー	0.1kg	はけ塗り又はローラー塗り
7	無機質系防水保護塗料(注)2	1.0kg	はけ塗り又はローラー塗り

(注)1 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

2 工程7の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2.5.3

脱気絶縁複合防水
(歩行用ウレタンゴム系全面修繕2回目以降)

2.5.3表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（平場）

工程	材料	使用量/m ²	工法
1	プライマー	0.2kg	はけ塗り又はローラー塗り
2	ウレタンゴム系塗膜防水材(注)1、2	0.3kg	こて、ゴムベラ又ははけ塗り
3	補強布	1.1m	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材(注)1、2	1.5kg	こて、ゴムベラ又ははけ塗り
5	ウレタンゴム系塗膜防水材(注)1、2	1.2kg	こて、ゴムベラ又ははけ塗り
6	層間プライマー	0.1kg	はけ塗り又はローラー塗り
7	無機質系防水保護塗料(注)3	1.0kg	はけ塗り又はローラー塗り

(注)1 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

2 ウレタンゴム系塗膜防水材は、工程を増やすことができる。

3 工程7の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2.5.4表 ウレタンゴム系塗膜防水工法・密着仕様の工程（庇、架台天端及び立上り部等）

工程	材料	使用量／㎡	工法
1	プライマー	0.2kg	はけ塗り又はローラー塗り
2	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用） (注)1、2	0.3kg	こて、ゴムベラ又ははけ塗り
3	補強布	1.1m	—
4	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用） (注)1、2	0.9kg	こて、ゴムベラ又ははけ塗り
5	ウレタンゴム系塗膜防水材（立上り用） (注)1、2	0.8kg	こて、ゴムベラ又ははけ塗り
6	層間プライマー	0.1kg	はけ塗り又はローラー塗り
7	無機質系防水保護塗料(注)3	1.0kg	はけ塗り又はローラー塗り

- (注)1 工程2、4、5のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。
- 2 ウレタンゴム系塗膜防水材は、工程を増やすことができる。
- 3 工程7の無機質系防水保護塗料は、性状により工程を増やすことができる。

7節 バルコニー等床防水工事

2.7.1表 ウレタンゴム系塗膜防水工法の工程

工程	材料	使用量／㎡	工法
1	プライマー	0.15～0.25kg	はけ塗り又はローラー塗り
2	ウレタンゴム系塗膜防水材(注)1	2.0kg	こて塗り又はゴムベラ塗り
3	仕上塗料(注)2、3	0.2kg	はけ塗り又はローラー塗り

- (注)1 工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。
- 2 工程3の平場部における骨材使用量は、製造所の仕様による。
- 3 工程2の防水材及び工程3の仕上塗料は、性状により工程を増やすことができる。

2.7.2

ウレタンゴム系
塗膜防水工法
(全面修繕1回
目)

2.7.3

ウレタンゴム系
塗膜防水工法
(全面修繕2回
目以降)

2.7.2表 ウレタンゴム系塗膜防水工法2回目以降の工程

工程	材料	使用量/㎡	工法
1	プライマー	0.1~0.2kg	はけ塗り又はローラー塗り
2	ウレタンゴム系塗膜防水材(注)1	1.5kg	こて塗り又はゴムベラ塗り
3	仕上塗料(注)2、3	0.2kg	はけ塗り又はローラー塗り

(注)1 工程2のウレタンゴム系塗膜防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以上の場合にあっては、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

2 工程3の平場部における骨材使用量は、製造所の仕様による。

3 工程2の防水材及び工程3の仕上塗料は、性状により工程を増やすことができる。

10節 階段室床防水工事

2.10.2

超速硬化ウレタン
吹付工法
(全面修繕1回
目)

2.10.1表 超速硬化ウレタン吹付工法の工程

工程	材料	使用量/㎡	工法
1	一液性湿気硬化型のウレタンゴム系 プライマー又はエポキシ系プライマー	0.15kg	はけ塗り又はローラー塗り
2	超速硬化ウレタン吹付け材	1.5kg	こて塗り又はゴムベラ塗り
3	仕上塗料	0.15kg	はけ塗り、ローラー塗り又は吹付け

2.10.3

超速硬化ウレタン
吹付工法
(全面修繕2回
目以降) (仕上
塗料塗替え)

2.10.2表 仕上塗料塗り替え工法の工程

工程	材料	使用量/㎡	工法
1	一液性湿気硬化型のウレタンゴム系 プライマー又はエポキシ系プライマー	0.1~0.15kg	はけ塗り又はローラー塗り
2	仕上塗料	0.15kg	はけ塗り又はローラー塗り